

お泊り会の恵み

主任司祭 高木 健次

9月に入っても暑い日が続きますが、夜に外を歩いていると涼しくて気持ちが良いので、季節は移っているのだと感じます。

夏を振り返って、教会関係で私が特に印象に残っていることは、数年ぶりに教会学校の夏のお泊り会が実現したことでした。若者たちが発案してくれて実現しました。久しぶりということもあり一泊だけで、参加者の規模も限定した開催でしたが、とにかく実現できて、みんな楽しく過ごして無事に帰ってこられたことはとても良かったと思います。これは直接計画に携わってくださった方、参加したりした人たちだけにとつて良かったのではなく、教会にとつて大切なことを示してくれたのではないかと感じています。今回、お泊り会を企画してくれた若者たちは、自分たちが子供のころ楽しかったお泊り会を今の子どもたちにも体験してほしい、という思いを強く持つておられたようにお見受けします。その思いは、コロナ禍を理由として色々な活動が止まり、その後も教会を覆っているように見える、もう以前のようなことができなくても仕方ない、という雰囲気は一石を投じてく

れたのではないのでしょうか。今の教会には、今の教会体験（過去の思い出ではなく）を必要としている人たちがいる。その人たち、特に子供たちのために、多少の無理はしなければならぬということをお泊り会は思い起させてくれたように感じられるのです。もちろん、すべて以前と同じように同じやり方で再開するということは出来ないし、そこにこだわる必要もないでしょう。しかし、今の教会のためにとにかくやってみよう、という思いは大切にしてきたいと思います。イエス様はおっしゃいました。「私は今日も、明日も、その次の日も自分の道を進まねばならない」（ルカ13・33）。「私の父は今もお働いておられる。だから、わたしも働くのだ」（ヨハネ5・17）。

私たちの教会が、未来にむけて歩み続け、今も働いておられるイエス様と共にある教会でありますように。今回お泊り会を実現して下さった若者たちに感謝いたします。その意気に励まされ、私自身も自分の中にある、めんどくさいという気持ちと戦いたいと思います。